

支 部 工 業 情 報

一般開放されている中央卸売市場

神奈川支部 唐 澤 ル ミ

横浜市神奈川区には、月に2回と年末、一般開放される横浜中央卸売市場があります。この市場の最大の特徴は、地域に開かれた市場として、市場を市民に開放してくれているところです。豊洲市場などは、見学できる場所が決められていたり、一般人は購入できなかつたりします。ところが、横浜中央卸売市場の水産棟は、一般人が気軽に入って、お買い物ができるのです。一時コロナで開放日が無くなっている時期もありましたが、現在は感染対策をしっかりと取りつつ開催しています。

横浜市の中央卸売市場の歴史は古く、昭和6年2月に全国で3番目、東日本では最初の中央卸売市場として開設されました。神奈川区にある中央卸売市場は、本場と呼ばれ、青果と水産物を取り扱っています。

このうち、水産物については、毎月の第1と第3土曜日の8時から10時まで一般に開放されています。また、令和3年から年末にも正式に開放されることとなりました。令和3年は、12月29日と30日の8時から11時まで開放されました。

年末には、解体前の大きなマグロが並び、新鮮なマグロやカニ、おせちの蒲鉾など、新鮮なものを自分で選んで安く買えるとあって、市民が次々と訪れ



年末の市場開放日

ていました。

また、水産棟の横には飲食店街があり、こちらは毎日一般に開放されています。お昼時には、新鮮な海鮮を目当てに行列ができています。

さらに、毎年11月中旬に市場まつりを開催しています。残念ながらコロナの影響で、2年間中止となっていますが、マグロの解体、つめ放題などのイベントのほかに、屋台なども多数並び、とても賑やかで楽しいお祭りです。一般開放のない青果もこの時ばかりは、水産棟で大量の新鮮な果物や野菜を安く販売しています。食事ができるテーブルなども大量に用意されています。コロナが収束し、今年は是非とも市場まつりが戻ってきて欲しいものです。

卸売市場というと、一般人は入れないというイメージですが、横浜中央卸売市場には入れるチャンスがあります。3,000円を超える高級蒲鉾などここでしか買えないものもあります。是非一度訪れてみてください。駐車場は混み合うようですので、できれば電車で。





東京地方税理士界

昭和46年11月26日 第三種郵便物認可 毎月1日発行 第768号 令和4年4月1日 東京地方税理士会



掲示板

部・委員会報告

会務報告


P. 24 P. 4 P. 3



菊ちゃん

第768号
2022/4月号

はしりみず
走水水源地の桜
(写真提供：横須賀支部 谷内 浩会員)

 東京地方税理士会

会員の声を聴く日……5月2日(月)午後3時から 本会会議室

東京地方税理士会ホームページアドレス <http://www.tochizei.or.jp/>